

令和2年度 学科AO入試 総合考査 問題用紙【救急医療学科】

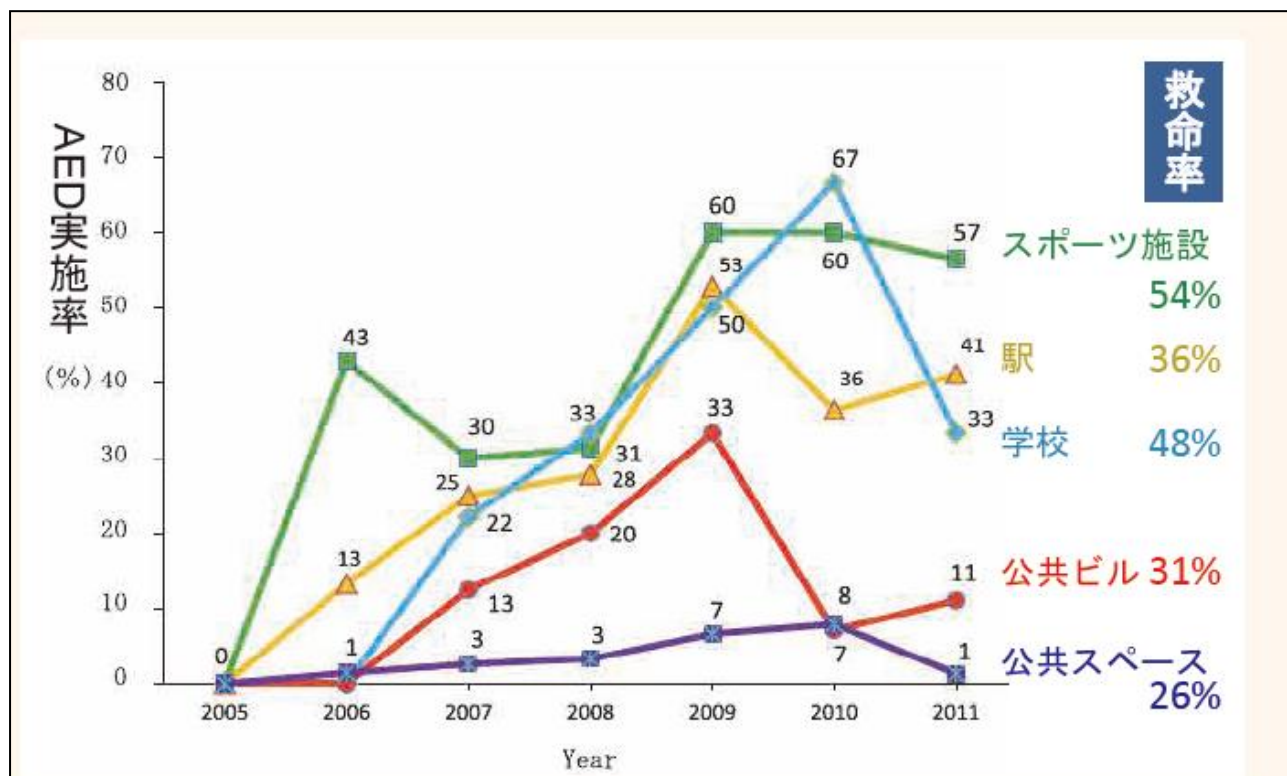
試験時間：60分

.....  
①～⑤の資料をみて、次の問いに答えなさい。

問1. スポーツにおける突然死の現状を100字以内でまとめなさい。

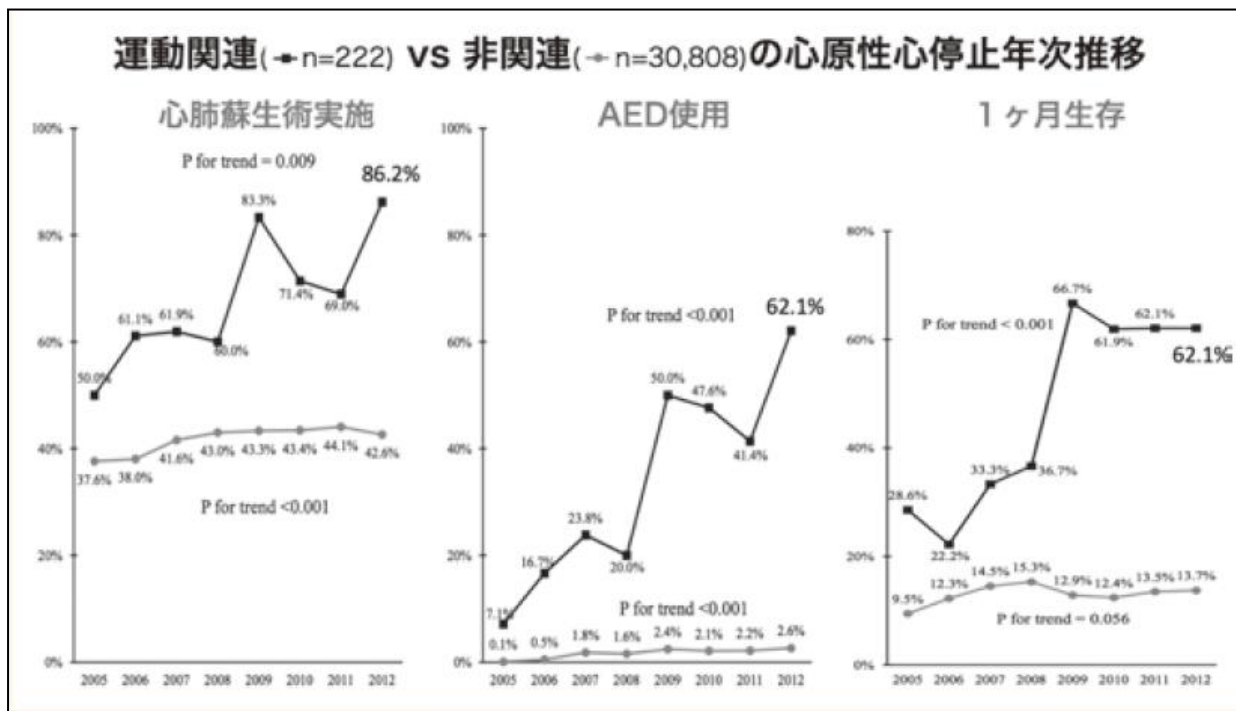
問2. このような現状に対して、どのような対策が必要か、「救命体制」・「AED配置」・  
「救命講習」という言葉を用いて述べよ。

<資料①>心原性心停止目撃例に対する場所別AED実施率推移と救命率（大阪府）



ほとんどのスポーツ中の心停止は心室細動である。スポーツ中は周囲に人が多く、心停止の瞬間を目撃されることが多く、加えて近くにAEDがあることも多く、電気ショックを受けられる可能性が高い。実際、大阪府における経時的な調査ではAEDの使用頻度はスポーツ施設において最も高く、救命率も高かった。

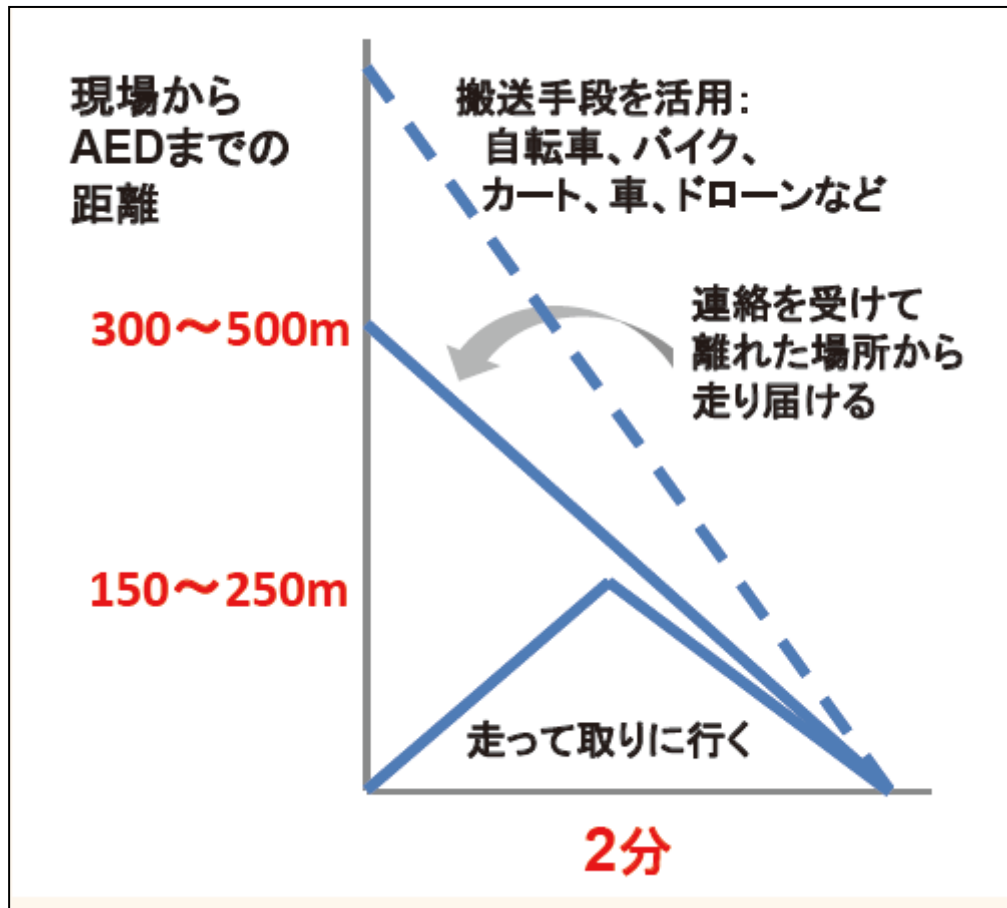
<資料②>大阪府における心原性心停止への救命処置介入率と生存率の推移



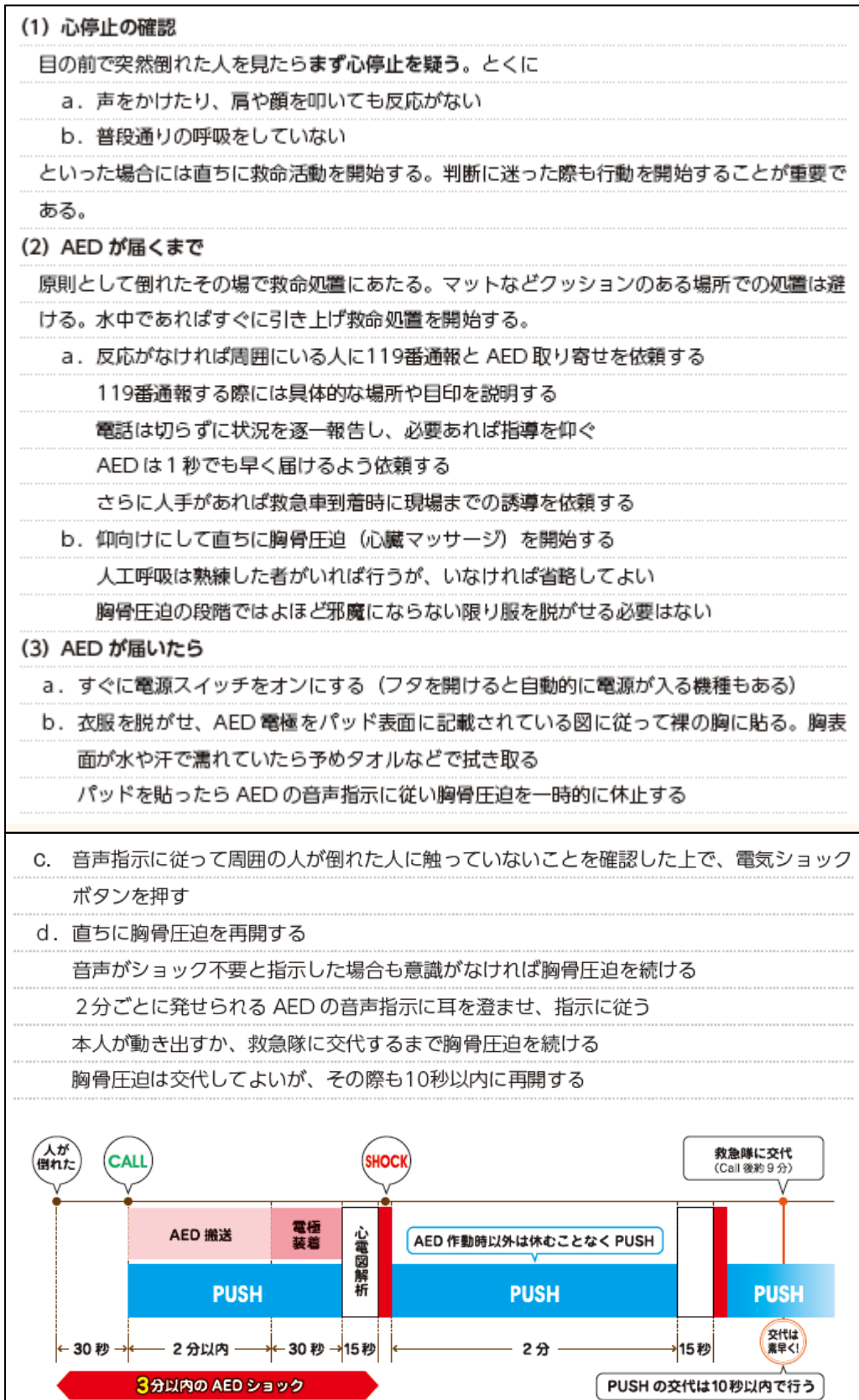
大阪府調査では運動中の心停止の84%の例が心停止の瞬間を目撃されていた。しかもその運動現場での蘇生術実施率が2005年には50%であったのが2012年には86%にまで増加し、またAEDによる電気ショックも7%から62%へと著明に増加していた。その結果、スポーツ関連心停止例の1ヶ月生存率が28.6%から62.1%に改善した（2012年のスポーツ非関連心停止では13.7%）。

※図中の数値は鮮明でないため確認できなくても良い。上記文章を参考にすること。

<資料③>2分以内にAEDを届けるためのアプローチとAEDまでの距離



＜資料④＞心停止発生時における秒刻みの救命処置フロー



＜資料⑤＞スポーツ大会開催時救命体制（市民マラソンを想定した具体案）

スポーツ大会開催時救命体制（市民マラソンを想定した具体案）

1. 救急担当責任者を置き、事前に大会中の救命体制を整備
  - (1) 救護人員：医師・看護師、救命士、その他沿道ボランティア
  - (2) 会場整備：救護本部・救護所の設置、必要数のAED確保、救急処置用具・医薬品の準備
  - (3) 消防署との連携：緊急時連絡手順の確認、救急車の受け入れ態勢
  - (4) 病院との連携：搬送先病院への事前訪問と受け入れ態勢の確保など
2. 3分以内の電気ショックを可能にするAED配置（環境に応じて工夫調整）
  - (1) 定点配置（諸条件による、例えば300～500m毎）
  - (2) 随走搬送（1.5～2km毎、自転車、バイクなど）
  - (3) 救護所およびゴールへの設置（5km毎）
  - (4) AED設置場所の目印や誘導標識の設置（50m毎）
3. 参加申込時に参加者の健康状況を自己申告  
持病、既往歴、アレルギー歴、内服薬、最近の症状の有無  
主治医の参加許可、家族・主治医の連絡先（ゼッケン裏に記載）
4. 事前に救護スタッフ・ボランティア・参加者に対し救命講習を実施
5. 大会当日の参加者体調を再確認（血圧、体温、睡眠、下痢・風邪等）
6. 大会挨拶や事前アナウンスにて救護体制やAED設置場所を参加者に周知
7. スポーツ中だけでなく、ゴール直後や終了後も最低30分は異変に注意

出典：提言「スポーツ現場における心臓突然死をゼロに」、日本循環器学会・日本AED財団、  
2018年4月26日